

仕事と育児の両立を支援する 「三菱重工 キラキッズ保育園」設立

砂場で遊んだり、駆けっこをしたり、歌ったり。子どもたちがのびのびと元気な様子を見せるのは、2010年4月に長崎造船所内に開園した、当社初の企業内保育園「三菱重工 キラキッズ保育園」です。CSR行動指針のひとつである「次世代への架け橋」の取り組みの一環として設立されました。

これまで、業務経験豊富な女性社員が、結婚や出産などのライフイベントを機に退職してしまうことや、男性社員でも、子どもを保育園に預けられずに苦勞しているケースが少なくありませんでした。そこで、「仕事と育児を両立できる環境を整えることが重要」という考えから、企業内保育園を設立しました。入園の対象となるのは、長崎造船所と長崎研究所に勤務する社員およびグループ会社社員の0歳から小学校就学前までの児童です。

「キラキッズ」という園名は、社内公募により決めました。「子どもたちの成長を支え、一人ひとりがキラキラした明るい未来に向かって自由にたくましく歩んでほしい」との願いが込められています。クラスの名前も、子どもたちがすくすくと成長する様を宝石になぞらえて、0歳は「パール」、3歳は「サファイア」、5歳は「ダイヤモンド」と、順に硬度が高まっています。

設備面では、子どもたちが快適に安心して過ごせるようセキュリティー機能を完備するほか、長崎造船所でつくられた太陽光発電システムを導入して照明用電力に利用しています。



上／屋根に太陽光発電システムを備えた保育園

下／開園式にて。初めての入園生となる子どもたちとその保護者



上／園を訪問した大宮英明社長

下／次代を担う子どもたちの成長が楽しみ

現在、保育園には、0歳から2歳までの子ども25人が通っています。2歳の男の子を通わせる女性社員は、「朝7時から夜8時まで預けられるため、急な仕事が入ったときでも長く勤務できるようになった」と、職場のそばに保育園がある利便性を実感。同じように1歳の男の子を預ける女性社員からは、「これまではほとんど祖父母にお願いしていたお迎えも、終業後に一緒に帰れるようになり、子どもと一緒にいられる時間が長くなった」と、喜びの感想がありました。そうした環境に子どもたちも安心していうようで、「保育園行く？」と聞くと、「行く！ クック(靴を履く)」と言って、朝から張り切って出掛ける姿も見られるとか。さらに、「保育園を利用していない人も、興味があるみたい」「職場の人が育児勤務に協力してくれる」という声などもあり、周囲の理解が心の支えになっていると言います。

勤務実態に合わせて子どもを預けやすく、送り迎えの負担も軽減できる企業内保育園。今後は、産休中・育休中の社員の支援を考えるとともに、社会が求める「男女共同参画」「仕事と家庭の両立支援」にさらに貢献していきます。